

教育内容

基礎分野

専門基礎分野

目次

基礎分野	1
・ 看護と物理	
・ 情報科学	
・ 文章表現	
・ 生命と倫理	
・ 人間と教育	
・ 心理学	
・ 社会学	
・ コミュニケーション論	
・ 人間関係論	
・ 生活論	
・ 諸外国の生活とマナー	
・ 臨床英語	
・ 癒しと健康	
・ 保健体育	
専門基礎分野	18
・ 形態機能学Ⅰ	
・ 形態機能学Ⅱ	
・ 形態機能学Ⅲ(総合演習)	
・ 形態機能学Ⅳ(解剖見学)	
・ 生化学	
・ 栄養学	
・ 臨床栄養学	
・ 臨床検査学(微生物学含む)	
・ 病理学	
・ 病態学Ⅰ(消化器・運動器)	
・ 病態学Ⅱ(呼吸器・循環器)	
・ 病態学Ⅲ(腎・泌尿器)	
・ 病態学Ⅳ(代謝・内分泌)	
・ 病態学Ⅴ(脳神経系)	
・ 病態学Ⅵ(女性生殖器・血液造血器)	
・ 病態学Ⅶ(耳鼻・歯)	
・ 病態学Ⅷ(眼・皮膚)	
・ 薬理学	
・ 臨床薬理学	
・ 家族社会学	
・ 公衆衛生学	
・ 社会福祉Ⅰ	
・ 社会福祉Ⅱ	
・ 看護と法	
・ 総合医療論	

基礎分野

科目名: 看護と物理 単位数:1 時間数:30 1年前期 講師名: 高村 豪・大房雅実 (8, 9, 12, 13)

科目設定理由

医療の高度化に伴い使用する機器は増加する一方である。看護者はその機器を管理する役割を担う。看護の対象の安全及び看護者自身の安全を守るため、その機器のしくみや原理を理解する。

人体の仕組みは物理的に解釈できるものが多く、援助に活用するための知識を身につける。また、人間の動作を物理的に捉え、作業効率や安全を守るための基礎的知識を身につける。

学習目標

看護を実践するために必要な物理学を学習し、様々な現象を物理的に理解する手法を身につける。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. ベクトル 質量と重さ ベクトルの表し方 力のつりあい 単位 力の合成 力の分解 ニュートン	講義 演習	
2	1. トルクとてこ 仕事とエネルギー 身体にみられる「てこの原理」 トルクと体位変換 仕事とエネルギーの単位	講義 演習	
3	1. 運動量 運動量の単位 撃力と骨折	講義 演習	
4	1. 作用・反作用 牽引 二重滑車構造 ラッセル牽引 反対牽引 力のつり合い	講義 演習	
5	1. 摩擦 摩擦力の種類と方向 最大静止摩擦係数 摩擦係数	講義 演習	
6	1. 比熱 比熱 絶対温度 セ氏とカ氏 融解熱と気化熱	講義 演習	
7	1. 圧力 圧力の単位 Kg/m ² 水圧 気圧	講義 演習	
8	1. 血圧 血圧 動圧と側圧 血圧の変化	講義 演習	
9	1. 酸素ポンプ 酸素ポンプのしくみ ボイル・シャルルの法則	講義 演習	
10	1. 圧力まとめ 圧力の大きさによって生じる疾患 液体の落下速度 密度・比重	講義 演習	
11	1. 飽和蒸気圧 溶液・溶質・溶媒 沸騰と蒸発 溶液・溶質・溶媒 重量パーセント	講義 演習	
12	1. 浸透圧 全透膜 半透膜 透析について	講義 演習	

13	1. ものの見えるしくみ ものの見えるしくみ 可視光線 レンズの種類 レンズによる結像 ファイバースコープ	講義 演習	
14	1. 放射線について 放射線の種類 被ばくについて 単位 放射線被ばく防護について	講義 演習	
15	1. 看護と物理の復習 身体・身体ケアに関する物理学の復習 検査・治療・処置に関する物理学の復習	講義 演習	

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 無し 資料配布

科目名: 情報科学 単位数:1 時間数:30 1年前期**講師名:目黒隆司, 穴澤正明**

科目設定理由

IT化が進む現代において、コンピュータを活用できる能力は必須である。コンピュータを日常の道具として活用するために、情報リテラシー、情報倫理、情報表現について学ぶことにより、情報に関する基礎的な知識や技能を身につけ高度情報社会に対応する基礎的能力を身につける科目とする。

学習目標

コンピュータ利用におけるリスクと倫理的行動の必要性が理解できる。

情報社会における情報倫理と法を理解した上で、コンピュータの基本的操作を習得する。

授業計画 穴澤:1. 2. 7. 8. 9、目黒:3. 4. 5. 6. 15、東瀬:10~14

回数	学習内容	学習形態	備考
1 2	1. コンピュータリテラシーとセキュリティー 2. コンピュータ利用におけるリスクと自衛 3. 情報を扱う際の倫理とマナー 4. プライバシーと守秘義務、個人情報保護法	講義	
3	1. コンピュータの基本操作 1)タイピングの基本 正しいタイピング方法について 2)タイピング練習課題	講義・演習	
4 5 6	1. Wordの基本操作 1)日本語入力 2)文章入力課題 3)文字の装飾とレイアウト 4)箇条書き 画像の使い方 5)文章作成課題 6)表の挿入と編集方法 7)図形とテキストボックスの活用 8)表と図形を用いた文章作成課題	講義・演習	
7 8 9	1. Excelの基本操作 1)値と関数の入力 2)計算表入力課題 3)データの並べ替えとフィルタ 4)グラフの作成 5)表とグラフを組み合わせた文章作成課題	講義・演習	
10	1. 統計の役割 2. 統計調査の基本 3. 調査票の作成演習	講義・演習	
11	1. データ入力の方法 2. データ検証の方法 3. アンケートデータ入力演習	講義・演習	
12	1. データの種類と基本統計量 2. 基本統計量の計算方法 3. 基本統計量を集計表に追加する課題	講義・演習	
13	1. 報告書の構成 1)調査報告の方法 2)調査報告書の構成 3)調査計画課題	講義・演習	

14	1. グラフ作成のポイント 1) クロス集計 2) ピボットテーブルとピボットグラフの作成方法 3) ピボットグラフ作成課題 2. レポート作成上のポイント 1) データの分布と傾向 2) 度数分布表の作成方法 3) 度数分布表作成課題	講義・演習	
15	1. 情報の信ぴょう性とデジタルレテラシー 1) Web ページの信ぴょう性と信頼性 2) フィッシング詐欺対策力診断 そのクリック大丈夫ですか。 3) ネットトラブルから身を守るために	講義・演習	

評価方法: レポート 100%

テキスト :看護情報学 医学書院

参考テキスト:統計解析なんかこわくない 第2版 医学書院

科目名: 文章表現 単位数: 1 時間数: 30 1年 前期 講師名: 渡部 正弘

科目設定理由

文章を書くという行為は、社会の中で不可欠なものである。医療に携わるものにとっても、文章によって他者に伝えることは多い。ここでは、基本的な文章の書き方を学習し、自分が伝えたいことを文章にできる能力を身につける。

学習目標

文章の書き方の基礎的知識を理解し、自己の考え方を表現する力を身につける。

授業計画 * 1・6・10・12・13後、一週空ける。

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 文章表現について 1) 自己紹介と授業について 2) 自己紹介文 [提出]	講義 演習	
2	1. 模範文 1) さまざまな模範文を読む	講義	
3	1. 文章について	講義	
4	1) 文章を書く手順 2) 文章の構成		
5	3) さまざまな文章	講義 演習	
6	4) 意見文を書く [毎時提出]		
7	1. 論文について	講義	
8	1) 論文の基本8箇条	講義 演習	
9	2) 小論文を読む		
10	3) 小論文を書く [毎時提出]		
11			
12			
13	1. 通信文について	講義 演習	
14	1) 通信文の基本形 2) 通信文を書く [提出]		
15	まとめ・振り返り	講義	

評価方法: 筆記試験 100 %

テキスト: なし 資料配布

科目名: 生命と倫理 単位数:1 時間数:30 1年 前期 講師名: 佐藤泰典

科目設定理由

現代社会において、人々の価値観は多様化し、相手の価値観を尊重し、認め合うことが看護職においても重要なこととなっている。価値観を構成する基盤は多々あるが、当人が「生きること」「死ぬこと」をどうとらえているか、いわゆる死生観も大事な要素となっている。看護師という生命倫理に触れる環境で働く職業人として、この日常考える機会が少ないテーマについて考察する科目とする。

学習目標

人間の死生観、人生観を形成する要素は様々あるが、その大きな一つが、環境であり、その民族、国が歩んできた歴史、宗教である。グローバル化が進む現代社会で、それぞれが視野を広げ、お互いの価値観を認めあうことが重要となっている。この講義では、西洋世界、中東世界の人々の精神性を構築してきた大きな柱の一つである「キリスト教」「イスラム教」の歴史について学び、その背後にある人々の人生観について考察する。一方、我々日本人の精神的基盤の一つである「仏教」「神道」「儒教」について学び、複雑な現代社会において「どう生きるか」「どうお互い認め合っていくか」について考察する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	オリエンテーション 講義のはじめに	講義	
2	1. 西洋、中東世界の精神世界について	講義	
3	1) ユダヤ教、キリスト教の成り立ちと歴史		
4	2) イスラム教の特色と歴史		
5			
6			
7	1. 日本人の精神世界の源流について	講義	
8	1) 仏教の歴史とその基本思想		
9	2) 神道、儒教と私たちの関わり		
10	3) 仏教的視点からみた現代社会		
11			
12			
13			
14	まとめ	講義	
15	「生と死」について、これまでの学習を踏まえ考察する。		

評価方法: レポート 100%

テキスト: 使用しない

科目名: 人間と教育 単位数:1 時間数:30 2年前期 講師名: 齋藤幸男

科目設定理由

看護は、さまざまなケアを必要としている人が対象である。ひとが「よりよく生きる」「みんなと共に生きる」ことをいかに導くか、という教育学を学ぶことを通して、看護の対象である人への理解と成長を考えるための基礎を培う。

学習目標

1. 人間形成における教育の本質と機能を理解する。
2. 「学ぶこと」の意味を理解する。

授業計画

回	学習内容	学習形態	備考
1	1. ガイダンス 1)授業の進め方 2. 看護と教育を考える 1)社会の中の看護と教育	講義・演習	
2	1. 教育学を学ぶために	講義・演習	
3	1)教育とは何か — 「教育」の概念 — 2)教育の組織化：学校の成立		
4	1. 教育をなりたいさせるもの	講義・演習	
5	1)教授：学ぶ・教えるということ — 院内学級の実践 —		
6	2)訓育：他者とのかかわりを導く — いじめについて —		
7	3)養護：教育の受け手を見守る — 子どもをチームで見とる — 4)発達：教育を受けて成長する — 特別ニーズ教育・インクルーシブ教育 —		
8	1. 教育の営みを考える	講義・演習	
9	1)学びの場：学校と家庭 — 不登校について —		
10	2)教育のメディア：教育をデザインする(1) — 「学び合い」・『学び合い』 —		
11	3)教育のメディア：教育をデザインする(2) — ジグソー法 — 4)創造する学び — ワールドカフェ —		
12	1. 教育を支える仕組み 1) コミュニティスクール・チーム学校	講義・演習	
13	1. 現代教育の新たな課題	講義・演習	
14	1) キャリア教育と生涯教育		
15	2) シティズンシップ教育 3)SDGsと教育・整理		

評価方法: レポート100% *出席・ふり返り、ディスカッションへの参加、レポートを総合的に評価する

テキスト: なし 資料配布

科目名: 心理学 単位数:1 時間数:30 1年 前期 講師名: 石橋和幸

科目設定理由

看護の対象である人間を心理学的側面から理解する。すなわち、一般的に心理学的な考え方を身につけ、人の行動やことについて理解を深める。また、自分自身の行動やことについて理解を深めることで他者理解や他者との関係性を客観的に分析できる基礎的知識を身につける。

学習目標

人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、心的存在としての人間を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 感覚の心理学 私たちは何を見ているのだろうか	講義 演習	
2	1. 知覚の心理学 私たちの見え方は同じだろうか 1) サプリミナルの世界、錯覚と幻覚	講義 演習	
3	1. 記憶の心理学 1) 覚えること、思う出すこと、忘れること 2) 昔の自分と今の自分は同じなのか	講義 演習	
4	1. 学習の心理学 先天的か後天的か 1) 言葉はどうやって身につくか 変な性癖の意味 2) 恐怖感のしくみ 男らしさ/女らしさの起源	講義 演習	
5	1. 臨床の心理学 カウンセリングをやってみよう 1) 様々なカウンセリング	講義 演習	
6	1. 性格の心理学 自分と向かい合おう 1) 性格のしくみ 変わる性格と変わらない性格 2) エゴグラムをやってみよう 性格テストを3倍使いこなそう	講義 演習	
7	1. 知能の心理学 頭がいいってどういうこと? 1) 知能とは何か、知能は測定できるか、知能テストの移り変わり 2) 知能は遺伝か環境か、知能を測定する意義 あなたの思考は柔軟か 3) 言葉と思考の関係	講義 演習	
8	1. 適応の心理学 子どもから大人へ 1) 子どもが大人になる過程 母性原理と父性原理 カウンセラーの苦悩 2) ひきこもり 親と同じ人生を歩む仕組み 生きるための知恵	講義 演習	
9	1. 医療の心理学 1) 患者と家庭と医療者の心理 2) 医者にかかる人の心理 どんな対応が望ましいか 家族の苦悩 3) ストレスが病気をつくる仕組み	講義 演習	
10	1. 社会病理の心理学 1) 社会問題に心理学のメスを入れよう 2) なぜグループをつくるのか なぜいじめるのか 差別と平等 3) 環境問題とジコチュー キレる子 子供がかわいいと思えない親	講義 演習	
11	1. 心理劇場 1) 細やかな心の動きを見つめよう とっておきの名画を鑑賞します	講義 演習	
12	1. 自我の心理学 自分探しの旅に出よう 1) 記憶と私 自我が強いは ジョハリの窓 ロールシャッハテスト 2) クラスの中の自分の位置づけ	講義 演習	
13	1. 感情の心理学 1) 偏見や嫉妬心はなぜあるのか 2) 感情を分析しよう やっかいな感情の正体 快、不快と上手に付き合う	講義 演習	

14	1. 集団の心理学 1) 大勢の中で牽制し合う私たち 2) 流行を追う心理、同調行動	講義 演習	
15	1. 心理学と情報科学 1) 心理学の思索から科学に変えた技術 2) クラスで作った性格テストの結果 差や傾向はあるとってよいか	講義 演習	

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 無 資料配布

科目名: 社会学 単位数:1 時間数: 30 1年 前期 講師名: 佐々木篤信

科目設定理由

人間は環境の中で生きており環境から様々な影響を受けている。看護サービスを提供するため、看護の対象である人間を社会的側面から理解する。個人と社会との関連性や個人の価値観を理解する基盤を身につける。

学習目標

社会の構造、機能、文化を学び社会的存在としての人間を理解する。

授業計画

回数		学習形態	備考
1	1. 社会を知る 2. 社会科学を考える	講義	
2	1. 社会学とは何か。独自の対象、看護との関係	講義	
3	1. 家族	講義	
4	1) 先端医療技術の光と影	講義	
5	2) 生殖技術と家族の行方 3) 結婚制度と家族関係 4) 家族のきずなを考える	講義	
6	1. 地域社会	講義	
7	1) 介護保険と地域 家族から地域へ	講義	
8	2) 環境問題を考える 3) 大量廃棄社会から循環型社会へ 4) 究極の廃棄物 5) 自治体からのとりくみ、世界に向けて	講義	
9	職場	講義	
10	1) 働くことの意義	講義	
11	2) 札幌麻生の取り組みから 3) 現状と課題 働く貧困層について 4) 危機をのりこえる 春山満さんの世界	講義	
12	現代社会	講義	
13	1) 現代と人格 「多重人格症」と社会	講義	
14	2) マイノリティーの社会学 3) 性同一性障害を考える 4) 社会的ひきこもりを考える	講義	
15	1. リスクマネジメントと事故をめぐって	講義	

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 社会学 医学書院

科目名: コミュニケーション論 単位数:1 時間数:15 1年前期 講師名: 荒井城太郎

科目設定理由

人間は、人と人との関係の中で生活を営んでいる。また、人間は人と人との相互作用において成長し合う存在である。しかし、対人関係が物事をすすめる上での障害になったり、大きな悩みに発展したりすることもある。そこで、このコミュニケーション論は、人間関係を形成する基本となるコミュニケーションの意義やコミュニケーションの基礎的知識を理解し、円滑な人間関係を形成する上での基礎的能力を養う科目とする。

学習目標

1. 人と人との関係を理解し、コミュニケーションに必要な基礎的知識・技術を理解する。
2. 体験を通して自己と他者のあり様に気づき、他者との効果的なコミュニケーション能力を身につける。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. コミュニケーションを学ぶ意義	講義 演習	
2	1) オリエンテーション 2) 様々なかたちで発信されるメッセージ		
3	1. コミュニケーションとパーソナリティ 1) 自我状態とエゴグラムを使って理解する	講義 演習	
4	1. コミュニケーションの原則と上手な使い方 1) やりとり分析と自我状態の選択	講義 演習	
5	1. どんなふうに通じるコミュニケーションをするのか 1) 人間関係の基本となる「かかわり(ストローク)」を意識する	講義 演習	
6	1. コミュニケーションや人間関係の様々な法則 1) 「かかわり(ストローク)」の法則と問題点	講義 演習	
7	1. 繰り返されるコミュニケーションのパターン 1) 嫌なやりとりを何度も繰り返してしまうのはなぜか?	講義 演習	
8	1. 健康的なコミュニケーションの土台となるもの 1) 自己受容、他者受容、自律性について	講義 演習	50分

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 無 資料配布

心理検査「新版 TEG3」

科目名: 人間関係論 単位数:1 時間数:15 3年前期 平井智子

科目設定理由

看護は、いずれかのライフサイクルにある人、およびあらゆる健康レベルにある個人または集団を対象とする。また、看護は、看護の対象とする人々の意思を尊重し、そのひとらしい生活を営めるように支援する必要がある。さらに、看護の目的を達成する過程においては、多職種との連携・協働して看護の対象とする人々のニーズに対応する必要がある。したがってこの科目では、コミュニケーション論の理解に積み上げ、看護場の面に求められる人間関係形成のあり方を理解し、看護の実践に活用できる能力を養う科目とする。

学習目標

1. これから必要となる思考や行動と題して、人間関係形成に必要な基礎的知識・技術を学び、体験学習を通して自己や他者との関係のありように気づき、他者を理解する態度を養う。
2. 良好な人間関係形成に必要な事柄を理解し、自身および他者への理解を深める。
3. コミュニケーションの基本を理解し、現場で使える実践力を養う。

授業計画

回数		学習形態	備考	講師名
1	1. これから必要となる思考と行動 1) 論理的思考能力 2) 情報の理解力	講義 演習	2 回目 50 分	
2	3) 発信力(プレゼンテーション能力)演習	講義・演習		
3	4) 問題解決能力 5) 集団の心理と環境からの影響 6) 心理臨床の現場から。患者の心	演習		
4	7) 自己コントロール 8) 共感性	演習		
5	オリエンテーション 自己紹介 授業のねらいと進め方 1. 人間関係の基礎 1) 様々な方と人間関係を築くために必要な「信頼」を得るためにできることを知る ・看護師として目指す姿 ・看護師としての印象管理(マナーの5要素)	講義・演習		
6	1. 人間関係とコミュニケーション 1) 自身のコミュニケーション傾向を知り、コミュニケーション力を強化する。 ・ビジネスコミュニケーション ・「聴く」、「伝える」ことのポイント	演習		
7	1. 現場でのコミュニケーション 1) 現場で必要なコミュニケーションの基礎を知る ・伝える力・・・「報連相」 ・聴く力・・・クレーム対応の心構え	演習		
8	まとめ 質疑応答、まとめ	演習		

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 無 資料配布

科目名: 生活論

単位数: 1

時間数: 15

1年前期

講師名: 深谷笑子

科目設定理由

「健康」に生きるためには、人間を取り巻く環境を整えることが重要となる。なかでも身近な日常生活について、健康との関連でその在り方を考えていくことは大切である。ここでは主に衣食住を中心に自然環境、社会環境との関連から理解する。それによって、看護の対象に生活を支援するための基礎的知識を身につける。また、学生が社会人として生活するために必要な知識を身につける

学習目標

健康な生活を送るために必要な生活行動や生活環境を科学的に理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 生活とは何か 1)漢字の成り立ちから考える 2)Live から考え、家庭を中心に、家、地域、国、世界に住むことについて理解する	講義	
2	1. 現代社会の特徴について(1) 1)現代社会は、どんな社会か 2)その特徴について学ぶ	演習	
3	1. 現代社会の特徴について(2) 1)現代社会の特徴をデータで説明発表 2)発表の仕方、データの使い方、論文の書き方について学ぶ	演習	
4	1. 衣生活(1) 1)衣類と被服の意味 衣服の役割と機能 2)衣服の性格 TPO について学ぶ	講義	
5	1. 衣生活(2) 1)洗剤の歴史 洗剤の種類と成分 衣服の洗濯 2)汚れの種類 汚れはなぜ落ちるか 3)界面活性剤の実験	実験	
6	1. 食生活 1)内閣府のデータから、現代の家庭の食生活の現状を知る 6つの「こ食」について考える 2)食生活で大切なことを学ぶ	講義	
7	1. 花育について(1) 1)花育とは何か 2)私たちの生活に花のある暮らしを提案する	講義	
8	1. 花育について(2) 1)生活に花を添える 2)実習を通しては花を楽しむ	演習	50分

評価方法: レポート 100 %

テキスト: 無 資料配布

科目名： 諸外国の生活とマナー 単位数： 1 時間数： 15 1年後期

科目設定理由

国際社会においては広い視野を持って異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々とともに生きていくことが求められる。昨今のグローバル化に対応するために、世界の文化を知り、その多様性を受け入れることができる寛容な態度を身につける必要がある。そこで、日本と諸外国の社会、生活、文化の違いを学び、人々の多様性に対応できるための科目とする。また、人々とかかわる中でのマナーを身につける。

学習目標

1. 日本と諸外国の文化や習慣の違いを理解する。
2. 異文化コミュニケーションの必要性が述べられる。
3. 人々とかかわる上での基本的なマナーを身につける。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 諸外国の生活について 1) 諸外国の生活 2) 異文化コミュニケーション	事前学習 グループワーク	50分	専任教員 間瀬陽子
2	1. 諸外国の生活、文化、人々の暮らし 2. 日本との違い	講義		竹田健康財団 職員 長谷川ジョシー
4		講義	50分	職員
5		講義	50分	職員 菊地梨沙
6	1. 世界の国や地域の生活や文化の多様性 2. 異文化コミュニケーションで大切なこと * 諸外国の講義を受けて、初講時の内容を再確認し、発表資料を作成する。発表会で共有する。	グループワーク		専任教員 間瀬陽子
7		発表		専任教員 間瀬陽子 レポート
8	1. 日常生活とマナー 1) 人々とかかわる上でのマナー 2) 身だしなみ 3) 美しい表現、美しい態度・動作 4) 電話対応 5) 訪問時のマナー・接遇	講義・演習	9回目 50分	大関ちか子
9				
10	基本的なマナーの実際	学内実習	50分	専任教員 4名

評価方法: レポート 100% 実技試験

テキスト: 看護の統合と実践[3] 災害看護・国際看護 医学書院

科目名: 臨床英語 単位数: 1 時間数:30 2年 前後期 講師名: 渡部香織

科目設定理由

臨床の現場においては、学術用語を理解し、医療チーム間で情報を共有することが求められる。また、国際化社会に伴い、看護場面の英会話能力を求められることも必至である。そこで、医療情報の理解に必要な基礎的看護英語を習得し、簡単な会話ができるための科目とする。

学習目標

医療従事者として必要な語学力を身につける。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	レッスンの進め方、テキストについて、レッスンでよく使うフレーズ 自己紹介 基本情報を伝える	ユニット1 講義	
2	1. 患者さんの情報 1) 基本情報に対する質問と返答	ユニット2 演習	
3	1. 病院内の科名 1) 病院内の科名やその場所への案内	ユニット3 演習	
4	1. 時間の表現 1) 入院患者さんへの病院内スケジュールの説明	ユニット4 演習	
5	1. 可算名詞、不可算名詞 1) 医療用備品の名称、数え方	ユニット5 演習	
6	1. 症状① 1) 患者さんの症状や問題点を聞く	ユニット6 演習	
7	1. 症状② 1) 体の部位に関する単語、痛む個所の確認方法	ユニット7 演習	
8	1. 症状③ 1) 症状や問題点のその後の状態確認、内臓器官の名称	ユニット8 演習	
9	1. 病歴 1) 病気の名称と、いつそれにかかったか	ユニット9 演習	
10	1. 薬の飲み方 1) 薬の種類、服用の仕方の説明、頻度を表す単語	ユニット10 演習	
11	1. 術後の処置、検査の進め方① 1) 患者さんに行う処置や検査の進め方の説明の仕方	ユニット11 演習	
12	1. 術後の処置、検査の進め方② 1) will や be going to を使った未来形	ユニット12 演習	
13	まとめ	ユニット1-12 演習	
14	1. プレゼンテーション リハーサル	演習	
15	1. プレゼンテーション(発表、質疑応答)	講義	

8回目以降は、毎回継続してプレゼンのスクリプト作成

評価方法: 試験(リスニング&ライティング) 85%

レッスン内スピーキング(グループ毎のプレゼンテーション、および質疑応答) 15% 5分ほどのプレゼンテーションの後、英語での質疑応答 スクリプトをただ読むだけでなく、自然な緩和のやり取りができているかを評価します。

テキスト: Speaking of Nursing 南雲堂

科目名: 癒しと健康 単位数:1 時間数:15 1年 後期

講師名:大竹典子(1~6) 佐藤泰典(7, 8)

科目設定理由

現代社会は、家庭、学校、社会、地域それぞれの場でストレス要因が多く存在する。ストレスによる不安や興奮は、心身の健康に影響する。看護師は、自分自身をはじめ、人々のより健康的な生活を追求するために、心の安らぎが得られる方法を身につける必要がある。そのため、音楽療法や座禅などの活動を通して、自己を見つめ、自己の感性を磨くとともに、癒された自身の体験から、かかわる人々の心身を癒し健康へ導く力を身につける科目とする。

学習目標

人々の心身を癒し、健康へ導く力を身につける。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1 ～ 6	1. 音楽 音楽療法 人々の心を癒す音楽	演習	6回目 50分
7 8	1. 禅 1) 禅と健康	演習	

評価方法: 実技試験 100%

テキスト:無 資料配布

科目名: 保健体育 単位数:1 時間数:30 1年 前期 講師名: 鈴木弘美

科目設定理由

新しい環境の中で学校生活を送る学生にとって、身体活動は心身の健康維持に欠かせないものである。身体活動を通して自分自身の健康の維持・増進を図るとともに、身体活動と健康の関係について理解を深める。

学習目標

健康を保持増進するために必要な保健・体育の意義と知識を習得する。

スポーツの楽しさに触れ、親しむ。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 自分を表現する	講義	
2	1)自己紹介 2. 健康と運動を考える 2)健康と運動の関係 食事の大切さ	演習	
3	1. 食に対する意識を高める	演習	
4	1)体をつくるために重要な食事について 2)食事調査		
5	1. 食事と運動の関係を考える	演習	
6	1)食事と運動の大切さ 2)筋トレ計画		
7	1. ダンスを通してチームワークについて学び、体を動かす大切さを知る	演習	
8			
9	・HIPHOP ー講師の振り付けを覚える		
10	・ジルバ ー二人で踊る代表的なステップを覚えながら少人数でのコミュニケーションを高める		
11	・グループワーク ー各グループで曲を選定し、自分自身を表現しつつ、チームワークを高めながら		
12	楽しく体を動かす		
13			
14	*各授業では看護師として必要な笑顔で他者と接すること		
15			

評価方法: 実技 100%

服装:学校指定のジャージ(ポロシャツ・ハーフパンツ可)及び運動可能なシューズ着用

[学校指定のジャージが手元に届くまでは、自前のジャージ等着用]

專門基礎分野

科目名:形態機能学Ⅰ 単位数:1 時間数:30 1年 前期 講師名: 山本肇

科目設定理由

看護の対象である人間を身体的側面から理解する。ここでは、人体の構造と機能について学習する。看護師は人間の健康の維持・増進、または疾病の回復過程の支援に関する立場から、これらの学習は重要な基礎となる。人体を構成する組織および人体各器官の構造と機能について理解する科目とする。

学習目標

人体を構成する組織および人体各部の構造と機能について、機能を扱う生理学的な視点から理解する。

回数	学習内容	学習形態	備考
1 2	1. 細胞と組織 1)細胞の構造 (細胞膜と細胞質、核、細胞小器官と細胞骨格) 2)細胞分裂 (染色体の複製と有糸分裂、減数分裂) 3)組織 (上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織) 4)細胞内情報伝達 (イオンチャネル型受容体、代謝調節型受容体) 2. 生体リズムと内部環境の恒常性 1)内部環境の恒常性 (細胞外液、恒常性維持機構) 3. 体温調節 1)体温 (核心温度と外殻温度) 2)体温の調節 (熱放散と熱産生、体温調節中枢)	講義	
3	1. 外皮系	講義	
4 5	1. 血液 1)血液の成分と機能 (血液の成分(血球、血漿、血清)、血液の動き、血液の物理化学的特性、造血と造血因子) 2)止血機構 (血液凝固、線維素溶解) 3)血液型 (ABO 式、Rh式、不規則抗体)	講義	
6 7	1. 消化器系 1)咀嚼・嚥下 (歯・口腔・唾液腺の構造と機能、咽頭・喉頭の構造と機能、食道の構造と機能、咀嚼、嚥下) 2)消化と吸収 (胃の構造と機能、十二指腸の構造と機能、空腸・回腸の構造と機能、結腸・虫垂の構造と機能、直腸・肛門の構造と機能、肝臓・胆道の構造と機能、膵臓の構造と機能、三大栄養素の消化と吸収、消化管運動と反射、消化管ホルモン)	講義	
8 9	1. 循環器系 1)心臓の構造と機能 (心臓、刺激伝導系、心機能の調節) 2)血管系の構造と機能1 (動脈、静脈、毛細血管、血圧と血圧調節、門脈系、肺循環と体循環、冠循環、脳循環、胎児・胎盤の血液循環、末梢循環の調節) 3)リンパ系の構造と機能 (リンパ液、リンパ管、リンパ節、胸管)	講義	
10 11	1. 呼吸器系 1)気道の構造と機能 (鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管支、発声) 2)肺の構造 (肺、胸膜筋と縦隔) 3)呼吸 (呼吸筋、換気、ガス交換、呼吸運動、呼吸調節)	講義	
12	1. 腎泌尿器系 1)尿の生成 (腎臓の構造と機能、糸球体濾過、再吸収と分泌) 2)体液量の調節 (抗利尿ホルモンの作用、レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系) 3)排尿 (尿管の構造と機能、膀胱の構造と機能、尿道の構造と機能、排尿反射)	講義	

13	1. 体液 1) 体液の構成 (体液の区分、体液の組成) 2) 体液の調節 (電解質バランス、酸塩基平衡、浸透圧調節)	講義	
14	1. 内分泌系 1) ホルモンの種類 (ホルモンの化学的性質、ホルモンの受容体) 2) ホルモン分泌の調節 (調節ホルモン、拮抗ホルモン、フィードバック機構) 3) 内分泌器官の構造とホルモンの機能 (視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、副甲状腺<上皮小体>、膵島、副腎皮質、副腎髄質、腎臓、性腺)		
15	1. 生殖器系	講義	

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院

科目名:形態機能学Ⅱ 単位数:1 時間数:30 1年 前期

講師名: 理学療法士 要由紀子(1~6)、 作業療法士 横地郁子(7~10) 山本肇 (11~15)

科目設定理由

看護の対象である人間を身体的側面から理解する。ここでは、人体の構造と機能について学習する。看護師は人間の健康の維持・増進、または疾病の回復過程の支援に関する立場から、これらの学習は重要な基礎となる。人体を支える仕組みや体を動かす仕組みを解剖学的視点から理解する科目とする。また、人体を構成する組織および人体各器官の構造と機能について理解する科目とする。

学習目標

人体を構成する組織および人体各部の構造と機能について、機能を扱う生理学的な視点から理解する。

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 運動器系	講義	
2	1)骨格の構造と機能 (骨、軟骨、全身の骨の種類)		
3	2)関節の構造 (関節の構造と種類)		
4	3)骨格筋の構造と機能 (骨格筋、筋収縮の機構、全身の筋の種類)		
5	1. 神経系		
6	1)神経細胞と神経組織 (神経細胞と情報伝達、神経膠細胞)		
7	2)中枢神経系の構造と機能		
8	(大脳、視床、視床下部、中脳、橋、延髄、小脳、脊髄、姿勢反射、髄膜と脳室、脳脊髄液		
9	の循環、感覚と運動の伝達路、覚醒と睡眠)		
10	3)末梢神経系の構造と機能 (脳神経、脊髄神経、体性神経、自律神経)		
11	1. 生殖器系 1)女性の生殖器系の構造と機能 (卵巣卵管、子宮、膣、外陰部・会陰の構造、乳房) 2)男性の生殖器系の構造と機能 (精巣と精路、精子の形成、精巣上体、精管、精囊、前立腺、陰茎)	講義	
12	1. 生体防御機構	講義	
13	1)非特異的生体防御機構 (食細胞とサイトカイン、胸腺、脾臓、リンパ組織) 2)特異的生体防御反応 (免疫系の細胞、抗原と抗体、補体、液性免疫、細胞性免疫、アレルギー反応、組織適合性抗原(HLA))		
14	1. 感覚器系	講義	
15	1)皮膚の構造と機能		
	2)体性感覚(刺激と感覚受容、表在感覚、深部感覚)		
	3)視覚(眼球と眼球付属器の構造、視力と視野、明暗覚、色覚、視覚の伝達路、眼球運動、眼に関する反射)		
	4)聴覚 (外耳・中耳・内耳の構造、聴力) 5)平衡感覚 (平衡器官、平衡覚)		
	6)味覚 (味蕾) 7)嗅覚 (嗅上皮)		
	8)内臓感覚(内臓感覚の受容器と機能)		

評価方法: 筆記試験 100% (1~10:50%、11~15:50%)

テキスト: 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院

科目名:形態機能学Ⅲ 単位数:1 時間数:15 1年 後期 講師名:小汲律・渡辺恵美子・沖山穂乃

科目設定理由

看護の対象である人間を身体的側面から理解する。ここでは、人体の構造と機能について学習する。看護師は人間の健康の維持・増進、または疾病の回復過程の支援に関する立場から、これらの学習は重要な基礎となる。そのため、人体を構成する組織および各器官の構造と機能について、理解を深める。また、普段何気なく行っている生活行動に疑問や関心を持ち、理解を深めていく科目とする。

学習目標

生活行動を通して、人体を構成する組織および各器官の構造と機能について理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	人体の構造と機能 【学習項目】	演習 (グループワーク)	事前課題提示
2	・息をする ・心臓の働き	演習 (グループワーク)	50分
3	・食べる、消化する ・尿の生成と排尿	演習 (グループワーク) ジグソーグループワークの準備	
4	※演習要項参照	演習 (ジグソーグループワーク)	講堂
5		演習 (グループワーク)	
6		発表準備	
7	全体発表会 学習項目の学びの共有	演習(発表会)	講堂 ※2年生参加
8			

評価方法: レポート 100%

テキスト: 解剖生理学 医学書院

さわ研講師の解剖ノート 第2版 啓明書房

科目名:形態機能学Ⅳ(解剖見学) 単位数:1 時間数:15 2年 前期 講師名: 間瀬陽子・羽染美紀

科目設定理由

看護の対象である人間を身体的側面から理解する。ここでは、人体の構造と機能について学習する。看護師は人間の健康の維持・増進、または疾病の回復過程の支援に関わる立場から、これらの学習は重要な基礎となる。人体を構成する組織および人体各器官の構造について、人体を支える仕組みや体を動かす仕組みを解剖学的視点から理解する科目とする。

学習目標

1. 既習の知識を活かし、人体を構成する組織および人体各器官の構造に触れて解剖学的視点から理解する。
 - 1) 人体を立体的に理解するための学習ができる。
 - 2) 解剖見学を通して学んだこと・感じたことを振り返ることができる。
2. 解剖見学の意義やご献体を通して命について考えることができる。
 - 1) 看護者を目指す者として解剖見学の意義や体験から学びを記述できる。
 - 2) 献体された本人とその家族の思いや命について自分の考えを記述できる。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 解剖見学の概要 解剖見学で学べる内容や実習場所をイメージし、今後の学習準備につなげる。	演習	1回目 50分
2 3 4 5	1. 人体模型を作成 *演習要項参照	演習 グループワーク	5回目 50分 5回目は講堂
6	1. 解剖見学に向けたテーマカンファレンス	演習 グループワーク	6回目 50分
7 8	1. 解剖見学 *解剖見学実習要項参照	解剖見学実習 (福島県立医科大学)	
9	解剖見学での学びの共有	演習 グループワーク 発表	講堂

評価方法: レポート 合否

テキスト: 人体の構造と機能(1) 解剖生理学 医学書院
さわ研講師の解剖ノート 第2版 啓明書房

科目名: 生化学 単位数:1 時間数:30 1年 前期 講師名: 宮澤 忠蔵

科目設定理由

基礎科学・生化学は、物質の組成やその相互作用を学ぶ学問である。看護学は、人間の疾病の看護および健康の維持・増進を目的として、主に生化学物質の物理的性質を人の生理作用へ活用する応用化学である。したがって、看護学を修める者にとって、基礎科学・生化学は基盤となる科目の一つであり、基礎科学・生化学を固めておくことは非常に重要である。

基礎科学・生化学を生命科学の一分科としてとらえ、生命・代謝を随所に盛り込みながら講義をすすめることによって、教養を高めながら専門科目に活用できる基礎科学・生理学知識の修得を図る。講義では、基礎科学・生化学に対する探求心を育みながら生命科学本来の面白さを理解することにより、専門科目を学ぶにあたっての橋渡しをする科目とする。

学習目標

看護学専門科目を生命科学の側面から学ぶために、基礎科学・生化学に関する基本法則などを理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. ガイダンス 2. 原子の構造と電子配置から元素配列としての周期表について	講義	
2	1. イオン結合、共有結合、水素結合とそれぞれの化合物について	講義	
3	1. 生命に必要な元素、飽和炭化水素・不飽和炭化水素化合物について	講義	
4	1. アルコール、エーテル、アルデヒドなどの含酸素化合物について	講義	
5	1. アミン、アミド、環式化合物などの含窒素有機化合物について	講義	
6	1. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質 2. 代謝・物質代謝とエネルギーの関係、細胞と糖類の構造と性質について	講義	
7	1. 脂質、アミノ酸とタンパク質、核酸とヌクレオチド、ビタミンの構造と性質について	講義	
8	1. 酵素の役割、性質、分類、アイソザイムおよび臨床診断と酵素について	講義	
9	1. 糖質代謝の概要、解糖のしくみ、グリコーゲンの合成と分解、ペントースリン酸回路代謝、糖新生、血糖の調節とホルモンの作用について	講義	
10	1. 脂質代謝の役割と概要、脂質の消化・吸収と貯蔵、脂肪酸の分解、ケトン体の代謝、脂肪酸と脂肪の合成、コレステロールの代謝、リン脂質とプロスタグランジン、血中リポタンパク、脂質異常症について	講義	
11	1. タンパク質の消化と吸収、アミノ酸の代謝、アミノ酸のその他の使われ方、アミノ酸代謝と先天性代謝異常、ヘムの生合成とビリルビンの代謝について	講義	
12	1. ヌクレオチドの代謝の役割と概要、ヌクレオチドの合成・分解について	講義	
13	1. エネルギー代謝の統合と制御 2. 臓器間の代謝のつながり、糖尿病について	講義	
14	1. 遺伝情報物質、DNAの複製、DNAからRNAへの転写、RNAからタンパク質への翻訳、遺伝子の変化、遺伝子診断・遺伝子治療と看護学的課題について	講義	
15	1. 代謝と疾患まとめ 2. 先天性代謝異常の概念、酵素異常による発症のメカニズム、受容体の異常、その他のタンパク質の異常について	講義	

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 人体の構造と機能(2) 生化学 医学書院

科目名: 栄養学 単位数:1 時間数:15 1年 前期 講師名: 良田千秋 (管理栄養士)

科目設定理由

看護は対象者の健康を保持増進または回復させるために正しい栄養学の知識を持ち、対象の生活や健康状態にあった食生活の援助方法を見極める必要がある。そのため、栄養に関するアセスメントの視点およびライフステージに応じた栄養についての基礎的知識を身につけるための科目とする。

学習目標

1. 栄養に関するアセスメントの視点と栄養の評価・判定について理解する。
2. 人間のライフステージの各段階における栄養所要量と栄養状態の判定を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 栄養学と看護 1) 栄養学の歴史 2) 保健・医療における栄養学 3) 食事療法の進歩と医療制度	講義	50分
2	1. 栄養素の種類と働き 1) 糖質 脂質 タンパク質 ミネラル 食物繊維 水	講義	
3	1. エネルギー代謝 1) 食品のエネルギー エネルギー換算係数 2) エネルギー消費 基礎代謝 3) エネルギー代謝率 メッツ(METs) 4) 推定エネルギー必要量	講義	
4	1. 食事と食品 1) 食事摂取基準 2) 栄養素の指標 食品に含まれる栄養素	講義	
5	1. 栄養状態の評価・判定 1) 栄養アセスメントの意義と方法 電解質アセスメント 2) 栄養ケア・マネジメント	講義	
6	1. ライフステージと栄養	講義	
7	1) 乳児期、幼児期、学童期		
8	2) 思春期・青年期、成人期、高齢期 3) 妊娠期、授乳期、更年期		

評価方法：筆記試験 100%

テキスト：人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院

新 食品成分表 東京法令出版

食品交換表 文光堂

参考文献：人体の構造と機能② 臨床生化学 メディカ出版

科目名：臨床栄養学 単位数：1 時間数：15 2年 前期

講師名：良田千秋、佐藤アキ子、渡部身江子、五十嵐元子（管理栄養士）

科目設定理由

看護は対象者の健康を保持増進または回復させるために正しい栄養学の知識を持ち、対象の生活や健康状態にあった食生活の援助方法を見極める必要がある。疾患や症状のある対象者の栄養管理は、関連職種連携したチームケアが必要となる。ここでは、チームで取り組む栄養管理について学び、疾患、症状に応じた食事療法や様々な状況にある対象者の栄養管理についての基礎的知識を身につけるための科目とする。

学習目標

1. チームで取り組む栄養管理について理解する。
2. 疾患別、症状別食事療法や、様々な状況に応じた栄養管理について理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 栄養管理 1) チームで取り組む栄養管理 2) 健康づくりと食生活 3) 病院食、栄養補助食品、経腸栄養製品	講義	
2	1. 生活習慣と食事	講義	8回目 50分
3	1) 肥満・メタボリックシンドローム		
4	2) 痩せ		
5	3) 生活習慣病		
6			
7	2. 疾患・症状別食事療法と状況に応じた栄養管理		
8	1) 循環器疾患患者の食事療法		
	2) 消化器疾患患者の食事療法		
	3) 栄養・代謝疾患患者の食事療法		
	4) 腎臓疾患患者の食事療法		
	5) 血液疾患患者の食事療法		
	6) がんの食事療法		
	7) 治療を要する小児の栄養管理		
	8) 術前・術後における栄養管理		
	9) 高齢者の在宅療養における栄養管理		

評価方法：筆記試験 100%

テキスト：人体の構造と機能[3] 栄養学 医学書院
新 食品成分表 東京法令出版
食品交換表 文光堂

科目名:臨床検査学(微生物学含む) 単位数:1 時間数:30 1年 前期 講師名: 臨床検査技師 佐藤 修

科目設定理由

地球上には無数の微生物が存在し、人間との関係において宿主-寄生関係がある。生体に異常をきたした際に様々な臨床検査が行われる。生体に及ぼす影響を理解することは、疾病予防、早期治療の支援、病状悪化の予防、回復促進にかかわる看護者にとって重要である。ここでは、感染症の原因、診断、発症メカニズム、感染防御機構に関する基礎知識を理解し、看護に必要な臨床検査の意義や種類、方法を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学び、人体の安全を守るために必要な基礎的知識を理解する。
2. 臨床検査の意義、種類、方法を学び、看護に必要な基礎的知識を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 臨床検査とは 2. 身近な微生物 1)細菌の名前・模型図・形態例、細菌・真菌の増殖、常在微生物、その他	講義	
2	1. 宿主の臓器・組織別にみる感染症と病原体	講義	
3	1)呼吸器感染症 結核		
4	2)消化器系感染症 肝炎		
5	3)尿路感染症 性感染症		
6	4)皮膚・粘膜の感染症 5)脳・神経系感染症		
7	1. 宿主の因子が影響する感染症と病原体	講義	
8	1)人獣共通感染症		
9	2)寄生虫感染症		
10	3)小児の感染症		
	4)母子感染		
	5)高齢者の感染症		
	6)日和見感染症		
	7)手術後感染症 8)薬剤耐性菌 感染症と臨床微生物		
11	感染症の分類と感染防御機構	講義	
12	自然免疫、獲得免疫、体制免疫、細胞性免疫 抗体の種類と特徴		
13	1. 生理検査	講義	
14	1)呼吸機能検査 超音波画像診断		
15	2)心電図 心音計 四肢血圧 脈波計		
	3)脳波計 聴力検査 等		
	2. 検体検査		
	1)血液検査 生化学検査 免疫血清検査 等 2)尿、喀痰、咽頭 その他の体液検査 等		

評価方法：筆記試験 100%

テキスト：疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院

科目名: 病理学 単位数: 1 時間数: 30 1年後期 講師名: 医師

科目設定理由

健康障害をもつ人々の看護を展開するためには、正常な人体の構造と機能を理解するだけでなく、疾病による形態的・機能的変化について細胞レベルでの正確な知識が必要である。

ここでは、炎症・循環障害・腫瘍・先天異常など、臓器の違いをこえて共通にみられる障害について、それがどのようなものか、また正常の細胞・組織との違い、発生原因、進行過程で生じるさまざまな現象、診断等について基本的な考え方を学び、それを踏まえて臨床でよく見られる各器官の主要な疾患の病因と成因また、それに伴う症状、および治療について学ぶ科目とする。

学習目標

病因と病変の特徴を学び、健康障害によって人体が受ける構造と機能の変化を理解する。

臓器別に特徴的な疾患の病変・成因・治療を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 病理学で学ぶこと 1) 病理学の役割 2) 内因・外因	講義	
2	1. 細胞・組織の障害と修復 1) 細胞・組織の障害 (1) 萎縮 (2) 肥大 (3) 壊死 (4) アポトーシス (5) 変性 2) 細胞・組織の修復 (1) 組織の再生 (2) 肉芽組織 (3) 瘢痕組織 (4) 影響因子		
3	1. 先天異常と遺伝子異常 1) 先天異常の分類 2) 奇形 3) 染色体異常 4) 遺伝子の異常と疾患 5) 主要な疾患		
4	(1) ダウン症候群 (2) ターナー症候群 (3) クラインフェルター症候群 (4) 心房中隔欠損症 (5) 心室中隔欠損症 (6) ファロー四徴症		
5	1. 代謝障害 1) 脂質代謝障害 2) 蛋白代謝障害 3) 先天性代謝異常		
6	4) 主な疾患 (1) 糖尿病 (2) クレチン症 (3) クッシング症候群		
7	1. 循環障害 1) 浮腫 2) 出血 3) 血栓症 4) 塞栓症 5) 虚血		

8	6) 梗塞 7) ショック 8) 高血圧症 9) DIC 10) 主要な疾患 (1) 心不全 (2) 狭心症 (3) 心筋梗塞 (4) 弁膜症 (5) 肺うっ血 (6) 肺塞栓症		
9	1. 炎症 1) 炎症とは 2) 炎症の各型 3) 主な疾患 (1) 肺炎 (2) 胸膜炎 (3) 腹膜炎 (4) 肝炎 (5) 胆嚢炎 (6) 膵炎		
10	1. 免疫 1) 免疫と免疫不全 2) アレルギー 3) 主な疾患 (1) 免疫不全症 (2) パセドウ病 (3) 全身性エリテマトーデス (4) 関節リウマチ		
11	1. 感染症 1) 感染と宿主の防御機構 2) 主な疾患 (1) リケッチア感染症 (2) クラミジア感染症 (3) 真菌感染症 (4) スピロヘータ感染症		
12	1. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍広がりと影響 3) 腫瘍の発生病理 4) 腫瘍の診断と治療		
13	5) 主な疾患 (1) 肺癌 (2) 胃癌 (3) 大腸癌 (4) 肝癌 (5) 膵臓癌 (6) 腎癌 (7) 子宮癌 (8) 前立腺癌 (9) 乳癌		
14	1. 血液・造血器系の障害 1) 骨髄の機能と血球の分化・成熟 2) 主な疾患 (1) 貧血 (2) 白血病 (3) 特発性血小板減少性紫斑病 (4) 悪性リンパ腫		
15	1. 老化と死 1) 老化 2) 加齢に伴う諸臓器の変化 3) 死と終末期医療		

評価方法： 筆記試験 100%

テキスト： 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院

科目設定理由

看護は人間の健康レベルに焦点を当て働きかけをしている。そのため、人間が機能障害に陥った状態について理解しておく必要がある。各疾病の成り立ち、治療・回復過程、回復に必要な因子を理解する必要がある。正しい情報を受け止める能力や治療法の効果を判断する能力、回復を阻害する要因を取り除く能力を身につけてほしい。ここでは、肺炎・気管支喘息・気胸・肺癌等の主な呼吸器系疾患と狭心症・心筋梗塞・不整脈・心不全等の主な循環器系疾患のある患者の看護を行うに当たり必要な基礎的知識として、その原因・機序・検査・主要な症状・診断及び治療を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 呼吸器系疾患の病態生理及び治療方法を理解する。
2. 循環器系疾患の病態生理及び治療方法を理解する。

授業計画

主な疾患の病態生理の理解	主な検査	主な治療	学習形態	時間	講師名
気胸 腫瘍 (肺がん、中皮腫) 炎症性疾患 (気管支炎、肺炎、間質性肺炎、胸膜炎) 気管支喘息 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 肺循環障害 (肺高血圧、肺塞栓症) 肺結核	気管支鏡検査 呼吸機能検査 動脈血液ガス分析 胸腔穿刺 肺生検	胸腔ドレナージ 肺切除術 酸素療法 非侵襲的・侵襲的 陽圧換気 化学療法 放射線療法 吸入による薬物療法 薬物療法	講義	15	医師
虚血性心疾患 (狭心症、急性冠症候群) 心筋症 (肥大型心筋症、拡張型心筋症) 心不全 (急性心不全、慢性心不全) 心タンポナーデ 炎症性疾患 (感染性心内膜炎、心筋炎、収縮性心膜炎) 弁膜症 (大動脈弁疾患、僧帽弁疾患) 不整脈 (上室性頻脈性不整脈、心室性頻脈性不整脈、徐脈性不整脈) 大動脈瘤、大動脈乖離 閉塞性動脈硬化症 控滅症候群 下肢静脈瘤、深部静脈血栓症 動脈硬化症 高血圧 (本態性、二次性) 起立性低血圧 ショック	心臓カテーテル法 心電図 胸部X線検査 心血管超音波 血管造影 心臓核医学検査 血行動態モニタリング	経皮的冠動脈形成術 (PCI) 冠動脈バイパス術 (CABG) 弁置換術・弁形成術 大動脈内バルーンパンピング (IABP) ペースメーカー 植込み型除細動器 血栓溶解療法・ 血栓除去術	講義	15	医師 鈴木聡

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 成人看護学[2] 呼吸器 医学書院 成人看護学[3] 循環器 医学書院

科目名: 病態学Ⅲ(腎・泌尿器)**単位数: 1 時間数: 15 1 年 後 期**

科目設定理由

看護は人間の健康レベルに焦点を当て働きかけをしている。そのため、人間が機能障害に陥った状態について理解しておく必要がある。各疾病の成り立ち、治療・回復過程、回復に必要な因子を理解する必要がある。正しい情報を受け止める能力や治療法の効果を判断する能力、回復を阻害する要因を取り除く能力を身につけてほしい。ここではネフローゼ症候群・腎炎・腎不全・尿路結石・前立腺肥大症・膀胱腫瘍などの主な腎泌尿器疾患のある患者の看護を行うに当たり必要な基礎的知識として、その原因・機序・検査・主要な症状・診断及び治療を学ぶ科目とする。

学習目標

腎泌尿器系疾患の病態生理及び治療方法を理解する。

授業計画

主な疾患の病態生理の理解	主な検査	主な治療	学習形態	時間	講師名
水・電解質の異常 (脱水、浮腫、低ナトリウム血症、高カリウム血症) 酸塩基平衡 (アシドーシス・アルカローシス) 腎不全 ネフローゼ症候群 I gA 腎症 急性糸球体腎炎 腎盂腎炎 腎炎 慢性腎臓病	血管造影検査 点滴静注腎盂造影 経静脈性腎盂造影 逆行性腎盂造影 腎生検	食事療法 薬物療法 透析療法 腎移植 手術療法 放射線療法 化学療法	講義	9	医師 三戸部倫大 *筆記試験50点分
尿路の炎症 腎腫瘍 尿路の通過障害 排尿障害 (過活動膀胱、腹圧性尿失禁、夜尿症) 尿管癌 尿路結石 前立腺炎 前立腺肥大症 前立腺癌 膀胱癌 精巣腫瘍 男性性機能障害	尿流動体検査 膀胱生検 膀胱鏡	手術療法 (ロボット支援 手術含む) 放射線療法 化学療法	講義	6	医師 *筆記試験50点分

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院

科目設定理由

看護は人間の健康レベルに焦点を当て働きかけをしている。そのため、人間が機能障害に陥った状態について理解しておく必要がある。各疾病の成り立ち、治療・回復過程、回復に必要な因子を理解する必要がある。正しい情報を受け止める能力や治療法の効果を判断する能力、回復を阻害する要因を取り除く能力を身につけてほしい。ここでは糖尿病・脂質異常症・関節リウマチなどの主な代謝性疾患と甲状腺機能亢進症・下垂体腫瘍などの主な内分泌疾患のある患者の看護を行うに当たり必要な基礎的知識として、その原因・機序・検査・主要な症状・診断及び治療を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 代謝異常の疾患、自己免疫疾患の病態生理及び治療方法を理解する。
2. 内分泌系の疾患の病態生理及び治療方法を理解する。

授業計画

主な疾患の病態生理の理解	主な検査	主な治療	学習形態	時間	講師名
メタボリックシンドローム、 肥満症 糖尿病 脂質異常症 高尿酸血症 痛風 ビタミン欠乏症 全身性エリテマトーデス(SLE) 関節リウマチ シェーグレン症候群 敗血症 ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症 アナフィラキシー	糖負荷試験(OGTT) 血糖自己測定(SMBG)	食事療法 運動療法 インスリン補充療法 糖尿病経口薬 下肢切断 免疫抑制薬 ステロイド療法 抗ヒト免疫不全ウイルス(HIV)療法	講義	15	医師 渡部良一郎
間脳・下垂体疾患 甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症・低下症、甲状腺炎) 副甲状腺(上皮小体)疾患 副腎皮質・髄質疾患 腫瘍(下垂体腫瘍、甲状腺癌) 性腺疾患(機能亢進症、低下症)	甲状腺機能検査 免疫学的評価 ホルモン血中・尿中濃度測定 ホルモン負荷試験 超音波検査 CT MRI	放射線療法 薬物療法 手術療法	講義	15	医師 高橋和広

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 成人看護学 [6] 内分泌 代謝 医学書院

成人看護学 [11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院

科目設定理由

看護は人間の健康レベルに焦点を当て働きかけをしている。そのため、人間が機能障害に陥った状態について理解しておく必要がある。各疾病の成り立ち、治療・回復過程、回復に必要な因子を理解する必要がある。正しい情報を受け止める能力や治療法の効果を判断する能力、回復を阻害する要因を取り除く能力を身につけてほしい。ここでは脳梗塞・脳出血・パーキンソン病・筋ジストロフィー症などの主な脳神経系疾患のある患者の看護を行うに当たり必要な基礎的知識として、その原因・機序・検査・主要な症状・診断及び治療を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 脳疾患、神経系疾患の病態生理及び治療方法を理解する。

授業計画

主な疾患の病態生理の理解	主な検査	主な治療	学習形態	時間	講師名
脳動脈瘤破裂 頭部外傷 腫瘍(脳腫瘍) 脳血管障害(くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、もやもや病) 頭蓋内圧亢進症 変性疾患(パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症 ALS) 脱髄疾患(多発性硬化症) 認知症(アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症) 感染症(脳炎、髄膜炎) 機能的疾患(てんかん) ギラン・バレー症候群 圧迫性神経障害 顔面神経麻痺(ベル麻痺) 自律神経失調症 筋ジストロフィー 重症筋無力症	神経学的検査 脳波検査 筋電図検査 脳血管撮影 脳脊髄液検査 CT MRI MRA SPECT PET 脳槽シンチグラフィ 頸動脈超音波検査 誘発電位	開頭術 穿頭術 血管バイパス術 血管内治療 脳室ドレナージ 脳室-腹腔(V-P)シャント 薬物療法 頭蓋内圧降下療法 抗凝固療法 rt-PA治療 ステロイドパルス療法 血漿交換療法 低体温療法	講義	15	医師 脳神経内科 廣瀬正樹 石田義則 青山雅彦 柴田健太郎 医師 脳神経外科 佐藤裕之 西野和彦

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院

科目名: 病態学VI(女性生殖器・血液造血器) 単位数: 1 時間数: 30 2年 前期

科目設定理由

看護は人間の健康レベルに焦点を当て働きかけをしている。そのため、人間が機能障害に陥った状態について理解しておく必要がある。各疾病の成り立ち、治療・回復過程、回復に必要な因子を理解する必要がある。正しい情報を受け止める能力や治療法の効果を判断する能力、回復を阻害する要因を取り除く能力を身につけてほしい。ここでは性染色体異常・子宮筋腫・子宮癌・性感染症などの女性生殖器疾患のある患者の看護を行うに当たり必要な基礎的知識として、その原因・機序・検査・主要な症状・診断及び治療を学ぶ科目とする。また、各種貧血・白血病・悪性リンパ腫などの主な血液疾患のある患者の看護を行うに当たり必要な基礎的知識として、その原因・機序・検査・主要な症状・診断及び治療を学ぶ内容とする。

学習目標

1. 女性生殖器系疾患の病態生理及び治療方法を理解する。
2. 血液・造血器系疾患の病態生理及び治療方法を理解する。

授業計画

主な疾患の病態生理の理解	主な検査	主な治療	学習形態	時間	講師名
性分化疾患（性染色体異常・性分化異常） 生殖機能障害（月経異常、不妊症、更年期障害） 女性生殖器の疾患（子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣嚢腫、卵管炎） 腫瘍（子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、卵巣の良性腫瘍） 胞状奇胎 性感染症（尖圭コンジローマ、脛トリコモナス感染症、クラミジア感染症、梅毒、淋病、HIV感染症）	染色体検査 内視鏡検査 ダグラス窩穿刺 細胞診 コルポスコピー 経膈超音波検査	ホルモン療法 化学療法 人工授精法 体外受精法 手術療法	講義	15	医師 植田牧子
貧血（鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、骨髄異形成症候群、再生不良性貧血、二次性貧血） 白血球減少症 腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫） 出血性疾患（血栓性血小板減少性紫斑病 TTP、免疫性血小板減少性紫斑病 ITP、播種性血管内凝固 DIC）	骨髄穿刺 リンパ節生検	化学療法 造血幹細胞移植 分化誘導療法 分子標的療法 支持療法	講義	15	医師 池田翔平

評価方法： 筆記試験 100%

テキスト： 成人看護学[9] 女性生殖器 医学書院
成人看護学[4] 血液・造血器 医学書院

科目設定理由

看護は人間の健康レベルに焦点を当て働きかけをしている。そのため、人間が機能障害に陥った状態について理解しておく必要がある。各疾病の成り立ち、治療・回復過程、回復に必要な因子を理解する必要がある。正しい情報を受け止める能力や治療法の効果を判断する能力、回復を阻害する要因を取り除く能力を身につけてほしい。ここではメニエール病・喉頭癌などの主な耳鼻科疾患と、齲蝕・歯周病などの主な歯疾患のある患者の看護を行うに当たり必要な基礎的知識として、その原因・機序・検査・主要な症状・診断及び治療を学ぶ科目とする。

学習目標

1. 耳鼻科疾患の病態生理及び治療方法を理解する。
2. 歯科疾患の病態生理及び治療方法を理解する。

授業計画

主な疾患の病態生理の理解	主な検査	主な治療	学習形態	時間	講師名
メニエール病 中耳炎 突発性難聴 花粉症・アレルギー性鼻炎 慢性副鼻腔炎 扁桃炎 喉頭炎 喉頭癌 舌癌 嚥下障害 顔面神経マヒ 反回神経マヒ 嗅覚・味覚障害	聴力検査 気導聴力検査・骨導聴力検査 平衡感覚検査 眼振検査 その他 偏倚検査・立ち直り検査 嗅覚検査 基準嗅覚検査・静脈性嗅覚検査 味覚検査 電気味覚検査・濾紙ディスク味覚検査	薬物療法 減感作療法 免疫療法 小線源療法 手術療法	講義	9	医師 安原一夫
齲蝕 辺縁性歯周病 顎関節症	X線検査	修復処置 (充填) 歯内治療 抜歯	講義	6	医師 今泉貞雄 大竹博之

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院
成人看護学[15] 歯・口腔 医学書院

科目設定理由

看護は人間の健康レベルに焦点を当て働きかけをしている。そのため、人間が機能障害に陥った状態について理解しておく必要がある。各疾病の成り立ち、治療・回復過程、回復に必要な因子を理解する必要がある。正しい情報を受け止める能力や治療法の効果を判断する能力、回復を阻害する要因を取り除く能力を身につけてほしい。ここでは視力異常・白内障・網膜症などの主な眼疾患、また皮膚炎・熱傷などの主な皮膚疾患のある患者の看護を行うに当たり必要な基礎的知識として、その原因・機序・検査・主要な症状・診断及び治療を学ぶ科目とする。

学習目標

感覚器系疾患の病態生理及び治療方法を理解する。

授業計画

主な疾患の病態生理の理解	主な検査	主な治療	学習形態	時間	講師名
眼の構造 屈折、調節の異常(近視、遠視、乱視、老視) 色覚異常	視力検査 視野検査		講義	6	医師
白内障 緑内障		手術療法 眼内レンズ挿入術 薬物療法			
網膜はく離 網膜症 眼底出血 結膜炎 角膜炎	眼底検査	光凝固療法 手術療法 薬物療法 ロービジョンケア			
皮膚がん アトピー性皮膚炎 蕁麻疹・接触性皮膚炎 尋常性乾癬 蜂窩織炎 带状疱疹 湿疹 疥癬 熱傷	貼付試験 搔把試験 病理検査	薬物療法	講義	9	医師 認定看護師 松下早緒里

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 成人看護学[13] 眼 医学書院

成人看護学[12] 皮膚 医学書院

科目名: 薬理学 単位数: 1 時間数: 15 1年 後期 講師名: 小田彩乃 (薬剤師)

科目設定理由

看護者は対象者の健康の回復・保持増進の過程において、病態とその治療方針を理解し治療に伴う生体の反応を捉え、順調な回復過程をたどることができるように援助する必要がある。さらに薬理学から得た知識を看護の実際に活かし、対象者が安全・安楽に生活できるように支援していかなければならない。ここでは薬物療法の目的、薬物の分布・代謝・排泄、また薬剤関係法規など薬理学の基礎的知識を学ぶ科目とする。

学習目標

薬物の特徴・作用機序・生体への影響および薬物の管理について理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 薬理学とは何か 1) 薬物とは何か 2) 薬物使用の目的	講義	8回目 50分
2	1. 薬が作用するしくみ 1) 受容体 2) 酵素		
3 4	1. 薬物動態 1) 投与経路 2) 吸収 3) 分布 4) 代謝 5) 排泄 6) 薬物動態の指標		
5	1. 薬理効果に影響する要因 1) 年齢 2) 性 3) 妊娠 4) 遺伝子		
6	1. 薬物使用の有益性と危険性 (有害事象) 1) 用量と指標 2) 副作用 3) 耐性 4) 依存		
7 8	1. 薬と法律 1) 医薬品に関する法律 (添付文書含む) 2) 薬物の管理		

評価方法： 筆記試験 100%

テキスト： 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

科目名：臨床薬理学 単位数：1 時間数：30 2年前期 講師名：小林史和(薬剤師)

科目設定理由

看護者は対象者の健康の回復・保持増進の過程において、病態とその治療方針を理解し治療に伴う生体の反応を捉え、順調な回復過程をたどることができるように援助する必要がある。ここでは薬理学で得た基礎的知識をもとに、臨床でよく使用される抗感染症薬、抗がん剤、抗精神病薬など主な疾患の治療薬について詳しく学ぶ科目とする。尚、ここでは薬液の希釈濃度を求める算式など、臨床で必要とされる計算についても学ぶ。

学習目標

各疾患及び主な症状の治療薬の作用機序、副作用、使用上の留意点等について理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 抗感染症薬 1) 抗菌薬 2) 抗真菌・ウイルス・寄生虫薬 3) 院内感染	講義	
2	1. 抗がん剤 1) 抗がん薬 2) 分子標的薬 3) がん化学療法における副作用とその対策	講義	
3	1. 免疫治療薬 1) 免疫抑制薬 2) 免疫増強薬 3) 予防接種薬	講義	
4	1. アレルギー反応の種類と抗アレルギー薬 1) 抗ヒスタミン薬・アレルギー薬 2) ステロイド性抗炎症薬 3) 非ステロイド性抗炎症薬 4) 抗リウマチ薬 5) 痛風・高尿酸治療薬	講義	
5	1. 交感神経、副交感神経に作用する薬物 1) 交感神経作用薬 2) 副交感試験作用薬 3) 筋弛緩薬・局所麻酔薬	講義	
6	1. 中枢神経系に作用する薬物 1) 全身麻酔薬 2) 催眠薬・抗不安薬 3) 抗精神病薬 4) 抗うつ薬 5) パーキンソン病治療薬 6) 抗てんかん薬 7) 麻薬性鎮痛薬 8) 薬物中毒解毒剤	講義	
7	1. 心臓・血管系に作用する薬 1) 降圧薬・昇圧薬 2) 狭心症治療薬 3) 心不全治療薬 4) 抗不整脈薬 5) 利尿薬 6) 脂質異常症治療薬 7) 血液凝固系・線溶系作用薬 8) 心停止・ショックに対する薬物	講義	

8	<ul style="list-style-type: none"> 1. 血液に作用する薬剤 <ul style="list-style-type: none"> 1) 貧血治療薬 2) 血液悪性腫瘍治療薬 	講義	
9	<ul style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 <ul style="list-style-type: none"> 1) 気管支喘息治療薬 2) 鎮咳薬 3) 去痰薬 4) 呼吸促進薬 	講義	
10	<ul style="list-style-type: none"> 1. 消化器系に作用する薬物 <ul style="list-style-type: none"> 1) 消化性潰瘍治療薬 2) 制吐薬 3) 下剤 4) 止痢剤 2. 生殖器系に作用する薬剤 <ul style="list-style-type: none"> 1) ホルモン関連製剤 2) 前立腺肥大症治療薬 	講義	
11	<ul style="list-style-type: none"> 1. 物質代謝に作用する薬物 <ul style="list-style-type: none"> 1) 糖尿病治療薬 2) 甲状腺疾患治療薬 3) 骨粗鬆症治療薬 	講義	
12	<ul style="list-style-type: none"> 1. 皮膚外用薬 <ul style="list-style-type: none"> 1) 炎症性皮膚疾患治療薬 2) 皮膚感染症治療薬 2. 眼科用薬 <ul style="list-style-type: none"> 1) 緑内障治療薬 2) 白内障治療薬 	講義	
13	<ul style="list-style-type: none"> 1. 漢方薬 <ul style="list-style-type: none"> 1) 漢方医学の基本的な考え方 2) 証による診断 3) 主な漢方薬 2. 消毒薬 <ul style="list-style-type: none"> 1) 消毒薬の種類と応用 	講義	
14	<ul style="list-style-type: none"> 1. 輸液製剤・輸血剤 <ul style="list-style-type: none"> 1) 電解質輸液製剤 2) 栄養輸液製剤 3) 全血製剤 4) 血液成分製剤 5) 血漿分画製剤 6) 輸血に伴う有害作用 	講義	
15	<ul style="list-style-type: none"> 1. 臨床に必要な計算 <ul style="list-style-type: none"> 1) 希釈液の濃度計算 	講義	

評価方法： 筆記試験 100%

テキスト： 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院

科目名: 家族社会学 単位数:1 時間数:15 1年 後期 講師名:

科目設定理由

看護の対象である人間を理解するためには、人々の生活の基盤となる家族および家族の人間関係を把握することが必要である。少子高齢化、核家族化がすすみ、家族のあり方や形態・機能の両面において多様化している。また、地域包括ケアのあらゆる場面において、家族が看護に求めるものも様々となっている。家族を的確に捉え、家族が持つ役割・機能を発揮できるように支援するかかわりが必要である。そこで、あらゆる場や状況における看護ケアの実践に役立てるために、家族および家族の人間関係、家族の役割・機能を社会的視点から理解するための科目とする。

学習目標

看護の対象者の生活の基盤となる家族の人間関係、役割・機能を社会的視点から理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1 2	1. 家族とは 1)授業の進め方 2)家族とは 3)家族と社会 家族と生活文化 4)地域と家族 職場と家族 5)家族の構造と機能 6)夫婦関係 パートナーシップ 7)親子関係 親と子と孫の絆 8)現代の家族とその課題 9)家族の多様性	講義	
3	1. 家族看護を支える理論と介入法 (ビデオ) 1)家族関係論 発達理論 システム理論	講義	
4 5	1. 家族看護を社会的視点から考える 1)家族看護の展開の方法(1) (ビデオ) 2)家族看護の展開の方法(2) (ビデオ)	講義	
6 7 8	1. 事例に基づく家族看護学の実践(1) (ビデオ) 1)急性期患者の家族 2)慢性期患者の家族 3)終末期患者の家族 4)先天奇形児の家族 5)精神疾患患者の家族 6)高齢患者の家族 7)周産期の家族	講義	8回目 50分

評価方法: レポート 100%

テキスト: 家族看護学 医学書院

科目名：公衆衛生学 単位数：1 時間数：15 2年 前期 講師名：宮澤 忠蔵

科目設定理由

公衆衛生学は、人間の生命現象を集団レベルで考究する科学で社会医学に分類される。主に健康者集団を対象にして、疾病へ移行させる原因を探索する。言い換えればその下人を回避することが、疾病予防という実践活動につながる。一方、人間の生命現象は、個人(宿主)が環境に適応し、その恒常性を維持することによって成立する。疾病の原因を宿主-環境関係の立場から解明するには多要因原因説が前提であり、その環境要因の領域に社会的・文化的環境要因も含まれることから、学際的展開が必須の科目である。

学習目標

人間集団の生命現象と社会制度や環境との関係を学ぶため、疫学・保健医療統計および保健・医療・福祉に関連する社会制度と社会環境に関する基本法則などを理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 公衆衛生の歴史 2. 現在の公衆衛生システムと政策およびこれからの公衆衛生	講義	
2	1. 公衆衛生のものさしとしての疫学と統計調査の実施と情報処理	講義	
3	1. 地域母子保健対策、 2. 高齢者を支えるシステムと制度 3. 成人保健、生活習慣病	講義	
4	1. 歯科疾患の主なものとその特徴 2. 精神保健福祉 3. 難病対策について	講義	
5	1. 感染症の現状と対策 2. 学校保健の概要 3. 産業保健の概要	講義	
6	1. 環境保健の総論 2. 食品衛生 3. 大気環境中の有害物質と健康影響	講義	
7	1. 廃棄物、 2. 地球環境の問題、 3. 水道 4. 居住環境	講義	
8	まとめ	講義	8回目 50分

学習方法：教科書を主体に、適宜に液晶プロジェクターなどの視覚素材を活用して講義する。

評価方法：筆記試験 100%

テキスト：健康支援と社会保障(2) 公衆衛生 医学書院

科目名: 社会福祉Ⅰ 単位数:1 時間数:15 1年 後期 講師名: 逸持治典子

科目設定理由

社会福祉は、社会において生み出される社会問題に対して、国民の生存権を保障するための社会的な施策および活動として存在している。医療の高度化に伴い、疾病を抱えながら生活している人が増加し、人々の生活問題として医療のかかわりも大きくなっている。そこで、社会福祉と医療および看護の連携の必要性が強調され、多くの意欲的な試みがなされている。ここでは、社会問題や施策を理解し、対象の生活を支援する基盤となる知識を習得する科目とする。

学習目標

社会福祉の発達、社会保障制度および社会福祉サービスと方法を理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 現代社会と社会福祉・社会保障 2. 社会福祉の理念、変遷 3. 社会保障の考え方	講義	
2	1. 暮らしと社会福祉・社会保障 2. 定義、目的、予算、諸外国の社会保障 3. 財源 4. 社会福祉の担い手と役割	講義	
3	1. 社会福祉の実践方法と社会資源の活用 2. 社会福祉の実践方法 方法体系の詳細 3. 社会資源とは何か 4. コーディネートの意義 個人情報の取り扱い	講義	
4	1. ライフサイクルと社会福祉 2. 子ども・家庭と福祉 障害児福祉 3. 子育て支援の施策・背景	講義	
5	1. 障害者福祉の理念と施策 2. 支援費制度と障害者自立支援事業を含めた措置 3. 制度からの転換	講義	
6	1. 高齢者と福祉 2. 介護保険制度が施行されるまでの高齢者施策 3. 介護保険制度の基本理念と実際の活用	講義	
7	1. 地域福祉 2. 理念の定義 地域社会とは何か 3. 地域福祉の推進と実施体制 4. 地域福祉計画の目的・プロセス 5. 権利擁護と成年後見制度から地域福祉を考える	講義	
8	まとめ	講義	8回目 50分

評価方法: 筆記試験 レポート 100%

テキスト: 健康支援と社会保障(3) 社会福祉と社会保障 医学書院

科目名: 社会福祉Ⅱ 単位数:1 時間数:15 2年 後期 講師名: 山口 可波

科目設定理由

社会福祉は、社会において生み出される社会問題に対して、国民の生存権を保障するための社会的な施策および活動として存在している。医療の高度化に伴い、疾病を抱えながら生活している人が増加し、人々の生活問題として医療のかかわりも大きくなっている。そこで、社会福祉と医療および看護の連携の必要性が強調され、多くの意欲的な試みがなされている。ここでは、社会問題や施策を理解し、対象の生活を支援する基盤となる知識を習得する科目とする。

学習目標

社会福祉の発達、社会保障制度および社会福祉サービスと活用について理解する。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1	1. 生活保護制度 1) 公的扶助制度 2) 生活保護における生活保障 義務と権利 3) 演習「費用負担区分・最低生活費の計算方法」	講義 演習	
2	1. 年金制度 1) 公的年金制度の意義・体系 2) 種類	講義	
3	1. 医療保険制度 1) 医療保険制度の沿革・体系・課題 2) 保健の種類、保険者、被保険者、費用負担	講義	
4	1. 介護保険制度 1) 高齢者の社会背景 2) 介護保険のしくみ、実際の活用 3) 介護保険の課題 4) 演習	講義 演習	
5	1. 雇用保険制度 1) 雇用保険制度成立の背景 2) 失業給付の実際と雇用事業の実際	講義	
6	1. 地域生活 1) 「施設から地域へ」「住居」「所得保障」を中心に事例を通して学ぶ連携の重要性 (医療・保健・福祉)	講義	
7	1. 社会福祉と社会保障 1) 普段の生活との結びつきを考える 2) 介護保険 医療保険	講義 演習	
8	まとめ	講義	8回目 50分

評価方法: 筆記試験 100%

テキスト: 健康支援と社会保障(3) 社会福祉と社会保障 医学書院

科目名: 看護と法 単位数:1 時間数:15 1年 後期 講師名: 清野 正哉

科目設定理由

私たちの生活は法律と関りなしには成立しない。そのため、法律の基礎的知識を学習する。さらに、看護は人の生命に直接かかわっているため、その過程で発生した場合に必要な法的知識を習得する科目とする。

学習目標

法律の基本的知識を理解した上で、看護に関連した法的知識を身につける。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考
1 2	1. 概要説明 2. 法とは何か 1)憲法に定める基本的人権 2)どのような場面で法が関係するか/個人(家族、家庭、社会)、職業法・ルール・倫理、 3)なぜ法が必要か、倫理の必要性 4)人の一生と法(出生、未成年、成年、(婚姻)、経済活動、経済取引、死)	講義	
3	1. 医療・看護の現場と人権 1)患者の権利(診療・治療を受ける権利、プライバシー権、個人情報、自己決定権) 2)家族等の権利、高齢者の人権 3)患者とQOL,インフォームドコンセント、セカンドオピニオン	講義	
4	1. 先端医療技術とそこでの問題点 1)先端医療技術の普及(人工授精、体外受精、代理出産の法的問題) 2)移植医療の進展(臓器の移植に関する法律等、人の死の判断) 3)遺伝子治療(ゲノム解析と治療、個人情報とプライバシーの問題) 4)クローン技術とクローン人間(人の問題、クローン人間は人か) 5)安楽死と尊厳死(人は自分の死を選べるか、自分以外のものが関与した場合は)	講義	
5 6	1. 医療関連分野における法律問題 1)法律問題とは何か 2)契約とは何か、医療契約、在宅医療契約 3)職務遂行に伴う法的責任(①医療事故に伴う民事責任(責務不履行に基づく法的責任、不法行為に基づく法的責任)、②医療事故に伴う刑事責任、③医療事故に伴う行政責任 4)医療裁判(裁判制度、裁判の種類、その対応)	講義	
7 8	1. その他の問題とまとめ 1)財産管理と成年後見制度 2)看護・医療現場での法律問題(医療・看護チームにおける共同行動における問題、治療現場での医療補助者としての逸脱問題、介護現場での問題 等) 3)その他	講義	8回目 50分

評価方法： 筆記試験 100%

テキスト： 無 資料配布

科目名: 総合医療論 単位数:1 時間数:15 3年前期

科目設定理由

社会の変化に伴って、看護の場は、治療を中心とした医療から生活の場でのケアに移行している。看護職は医療とケアの専門職として社会から期待されている。看護職として医療の動向はもちろん保健・福祉の現状を理解することは重要である。ここでは、保健・医療・福祉の動向、保健医療制度を知り、これからの看護の役割を考える科目とする。

学習目標

1. 我が国の保健・医療・福祉の動向や医療制度を知り、これからの看護の役割を考える。

授業計画

回数	学習内容	学習形態	備考	講師名
1	1. 医療概論①	講義		竹田健康財団 理事長 竹田秀
2	病院と医療 我が国の医療制度			
3	1. 医療概論②	講義	8回目 50分	竹田健康財団 事務局長 東瀬多美夫
4	1) 我が国の医療を取り巻く環境			
5	2) 日本の社会保障			
6	3) 医療保険制度			
7	4) 公的年金制度の変遷			
8				

評価方法: レポート 100%

テキスト: 無 資料配布